

産科婦人科学

教	授	齋藤	滋
講	師	藤村	樹
助	手	酒井	正利
助	手	種部	正恭
助	手	日高	隆雄
助	手	道又	敏彦
助	手	津田	博泰
助	手	佐々木	泰寛
講	師(前)	山川	義寛

◆ 著 書

- 1) 齋藤 滋：妊娠に伴う生理的变化—免疫系—。「周産期の生理学」寺尾俊彦編，75-84，メディカ出版，大阪，2000.
- 2) 齋藤 滋：母子の免疫機能の特徴。「図説産婦人科VIEW38，母子感染」坂元正一編，26-37，メジカルビュー社，東京，2000.
- 3) 齋藤 滋：免疫不全。「新女性医学大系31，新生児とその異常」武谷雄二編，352-361，中山書店，東京，2000.
- 4) 齋藤 滋，種部恭子，道又敏彦，津田 博：着床の分子機構。「哺乳類の生殖生化学」中野 實，荒木慶彦編著，261-291，アイピーシー，東京，1999。(1999年度追加)

◆ 原 著

- 1) Saito S.: Cytokine network at feto-maternal interface. *J. Reprod. Immunol.* 47 : 87-103, 2000.
- 2) Yamakawa Y., Fujimura M., Hidaka T., Hori S. and Saito S.: Neoadjuvant Intraarterial Infusion Chemotherapy in Patients with Stage IB2-IIIB Cervical Cancer. *Gynecologic Oncology* 77 : 264-270, 2000.
- 3) Tanebe K., Nishijo H., Muraguchi A. and Ono T.: Effect of Chronic Stress on Hypothalamic Interleukin-1 β , Interleukin-2, and Gonadotropin-Releasing Hormone Gene Expression in Ovariectomised Rats. *J. Neuroendocrinology* 12 : 13-22, 2000.
- 4) Yuki H., Fujimura M., Yamakawa Y. and Saito S.: Detection of apoptosis and expression of apoptosis-associated proteins as early predictor of prognosis after irradiation therapy in stage IIIb uterine cervical cancer. *Jpn. J. Cancer Res.* 91 : 127-134, 2000.

- 5) Kataoka K., Takata Y., Nakajima A., Saito S. and Huh N.: A Carcinoembryonic Antigen Family cDNA from Mouse Placenta Encoding a Protein with a Rare Domain Composition. *Placenta* 21 : 610-614, 2000.
- 6) Luo L., Ibaragi T., Maeda M., Nozawa M., Kasahara T., Sakai M., Sasaki Y., Tanebe K. and Saito S.: Interleukin-8 levels and granulocyte counts in cervical mucus during pregnancy. *Am. J. Reprod. Immunol.* 43 : 78-84, 2000.
- 7) 藤村正樹，片岡 健，日高隆雄，齋藤 滋：卵巣明細胞腺癌における抗癌剤感受性試験. *Oncology and Chemotherapy* 16 : 241-244, 2000.
- 8) 日高隆雄，中島彰俊，藤村正樹，山川義寛，齋藤 滋：Paclitaxelによる筋肉痛に対する芍薬甘草湯の効果. *産婦人科漢方研究のあゆみ* 17 : 79-83, 2000.
- 9) 吉田剛祥，藤村吉博，河本順雄，朴 永東，下山丈人，齋藤 滋，森川 肇：奈良臍帯血サブバンクにおける臍帯血造血幹細胞の調整と機能保持に関する研究. *産婦人科の進歩* 52 : 437-447, 2000.

◆ 症例報告

- 1) 種部恭子，佐々木泰，酒井正利，齋藤 滋：肥大型閉塞性心筋症合併妊娠の2例. *日産婦富山地方部会誌* 15 : 9-13, 2000.
- 2) 佐々木泰，高木紀美代，酒井正利，齋藤 滋：塩酸トリエンチンを使用し2度の妊娠，出産を行い得たD-ペニシラミン不耐性Wilson病の1例. *日本新生児学会誌* 36 : 495-499, 2000.
- 3) 脇 博樹，佐々木泰，新居 隆：間質部妊娠methotrexate療法の一例. *日産婦富山地方部会誌* 15 : 20-22, 2000.
- 4) 堂下真樹子，日高隆雄，藤村正樹，山川義寛，泉 陸一，齋藤 滋：長期の寛解が得られた後に再発した卵巣癌の一例. *日産婦富山地方部会誌* 15 : 23-26, 2000.

◆ 総 説

- 1) 齋藤 滋，宮脇利男：臍帯血細胞の分子生物学②免疫担当細胞. *血液・免疫・腫瘍* 5 : 257-263, 2000.
- 2) 齋藤 滋，島本郁子：妊娠時の免疫系. *周産期医学* 30 : 65-70, 2000.
- 3) 齋藤 滋：カレントレビュー生殖免疫（現象）とサイトカイン. *日本産科婦人科学会誌* 52 : 1246-1259, 2000.

- 4) 酒井正利, 斎藤 滋: preterm PROMの診断. 産婦人科治療 81: 260-263, 2000.
 - 5) 酒井正利, 斎藤 滋: 早産陣痛の発来と絨毛膜羊膜炎. 産婦人科の実際 49: 825-831, 2000.
 - 6) 酒井正利: 母体・胎盤-羊水の感染防御機構. 産科と婦人科 67: 1376-1383, 2000.
 - 7) 種部恭子, 斎藤 滋: ストレス下での免疫系による内分泌制御. 産婦人科の実際 49: 301-308, 2000.
- ◆ その他
- 1) 斎藤 滋: Evidence-Based Medicine EBM: (科学的根拠に基づいた診療). 医報とやま 1264: 16, 2000.
 - 2) 斎藤 滋: 母性本能は父親から受け継ぐ? 富山市医師会報 356: 3, 2000.
 - 3) 斎藤 滋: 日本産科婦人科学会公開講座「低用量ピルの正しい使い方」を開催して. 富山医科薬科大学学園だより 66: 21, 2000.
- ◆ 学会報告
- 1) Saito S.: Cytokine cross-talk between the human trophoblast and decidual leukocytes. 2nd International Conference on Experimental and Clinical Reproductive Immunology, 2000, 11, Amsterdam.
 - 2) Saito S.: Cytokine network at the fetomaternal interface in humans. International Congress on Fertilization, Embryo Development and Implantation, 2000, 11, New Delhi.
 - 3) Saito S.: Th1/Th2 balance in preeclampsia. 12th World Congress International Society for the Study of Hypertension in Pregnancy, 2000, 7, Paris.
 - 4) Saito S., Tsuda H., Michimata T. and Tanebe K.: NKT cell in human decidua. 20th Annual Meeting American Society for Reproductive Immunology, 2000, 6, Florida.
 - 5) Tsuda H., Michimata T., Tanebe K. and Saito S.: Expression of Th2 chemokine receptor (CRTH2) on decidual CD4⁺ T cells. 20th Annual Meeting American Society for Reproductive Immunology, 2000, 6, Florida.
 - 6) Tsuda H., Michimata T., Tanebe K. and Saito S.: Distribution of TH2 and TC2 cells on decidual lymphocytes. 2nd International Conference on Experimental and Clinical Reproductive Immunology, 2000, 11, Amsterdam.
 - 7) Miyazaki S., Tanebe K., Tsuda H. and Saito S.: Absence of uterine natural killer cells in fetomaternal interface interleukin 2 receptor common gamma chain knockout mice. 2nd International Conference on Experimental and Clinical Reproductive Immunology, 2000, 11, Amsterdam.
 - 8) Fujimura M.: Ovarian clear cell adenocarcinoma: Establishment of new treatment strategy. The 11th Annual Review Course Gynecologic Oncology and Pathology, 2000, 10, Kyoto.
 - 9) 斎藤 滋: 早産の診断と対応-感染症を中心として-. 第4回鳥根県母性衛生学会特別講演, 2000, 3, 鳥根.
 - 10) 斎藤 滋: 他科の先生方にも知っていただきたい産婦人科疾患ならびに治療法. 第9回高岡臨床内科セミナー特別講演, 2000, 3, 高岡.
 - 11) 斎藤 滋: 早産の予知, 診断, 対応. 平成12年度岐阜県産科婦人科学会周産期研究会特別講演, 2000, 7, 岐阜.
 - 12) 斎藤 滋: 早産と感染症. 平成12年度第1回三重県産婦人科感染症研究会特別講演, 2000, 9, 三重.
 - 13) 斎藤 滋: 早産の診断と対応-感染症を中心として-. 平成12年度日母石川県支部学術研修会特別講演, 2000, 9, 金沢.
 - 14) 斎藤 滋: 母乳とサイトカイン. 第15回日本母乳哺育学会特別講演, 2000, 9, 奈良.
 - 15) 斎藤 滋: 炎症反応と早産. 第473回日本産科婦人科学会宮城県地方部会集談会特別講演, 2000, 10, 宮城.
 - 16) 斎藤 滋: Th1/Th2バランスからみた妊娠中毒症. 血液と血管に関する研究会特別講演. 2000, 11, 宮崎.
 - 17) 斎藤 滋: 妊娠成立の仕組み. 厚生省小児医委託研究事業第8回公開シンポジウム/市民公開講座特別講演, 2000, 12, 東京.
 - 18) 藤村正樹: 卵巣明細胞腺癌の特性とその治療戦略. 第47回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会特別講演, 2000, 9, 金沢.
 - 19) 藤村正樹, 片岡 健, 日高隆雄, 山川義寛, 斎藤 滋: 薬剤耐性卵巣癌である卵巣明細胞腺癌に対するEGF-Rのチロシンリン酸化阻害剤 (ZD 1839)を用いた新たな治療戦略. 第59回日本癌学会ミニシンポジウム, 2000, 10, 横浜.
 - 20) 藤村正樹: 外陰癌の手術と併用化学療法. 第40回子宮癌研究会シンポジウム, 2000, 11, 札幌.

- 21) 日高隆雄, 津田 博, 藤村正樹, 山川義寛, 齋藤 滋: 化学療法時の感染症予防に対するG-CSFおよびM-CSFの効果についての検討. 第10回日本産婦人科・新生児血液学会, 2000, 6, 旭川.
- 22) 酒井正利: Th1/Th2バランスと妊娠中毒症の関連性. 第21回日本妊娠中毒症学会シンポジウム, 2000, 9, 東京.
- 23) 齋藤 滋: 母児接点の場におけるサイトカインクロストーク. 第12回白樺湖カンファレンスワークショップ, 2000, 9, 松本.
- 24) 津田 博, 道又敏彦, 種部恭子, 齋藤 滋: 脱落膜にはTh2細胞, Tc2細胞が増加している. 第8回日本胎盤学会ワークショップ, 2000, 8, 札幌.
- 25) 道又敏彦, 津田 博, 種部恭子, 齋藤 滋: 脱落膜リンパ球のTh2ケモカインレセプター(CRTH2)の発現に関する検討. 第8回日本胎盤学会ワークショップ, 2000, 8, 札幌.
- 26) 片岡 健, 高田義美, 中島昭憲, 齋藤 滋, 許南浩: 胎盤形成と癌細胞株を用いた組織浸潤関連遺伝子の検索. 第8回日本胎盤学会ワークショップ, 2000, 8, 札幌.
- 27) 種部恭子: 女性の健康管理と避妊指導のポイント. 第52回日本産科婦人科学会ランチョンセミナー, 2000, 4, 徳島.
- 28) 道又敏彦, 津田 博, 種部恭子, 齋藤 滋: 当科における卵管鏡下卵管形成術の治療成績. 第1回北陸STD研究会, 2000, 2, 金沢.
- 29) 齋藤 滋, 酒井正利, 米田 哲, 種部恭子: LP S誘導マウス早産モデルを用いたCOX-2選択的阻害剤の早産予防効果に関する検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 30) 山川義寛, 藤村正樹, 日高隆雄, 齋藤 滋: 進行子宮頸癌(IIb-IIIB期)に対するネオアジュバント動注化学療法の有効性についての検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 31) 酒井正利, 米田 哲, 種部恭子, 齋藤 滋: LP S誘導マウス早産モデルを用いたCOX-2選択的阻害剤の早産予防機序に関する検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 32) 種部恭子, 道又敏彦, 津田 博, 齋藤 滋: 妊娠初期絨毛および脱落膜におけるprolactin-releasing peptide(PrRP)とその受容体hGR3の発現. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 33) 日高隆雄, 津田 博, 藤村正樹, 山川義寛, 齋藤 滋: 化学療法時の感染症予防に対するG-CSFおよびM-CSFの至適投与方法についての検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 34) 道又敏彦, 津田 博, 宮崎聡美, 齋藤 滋: 当科における卵管鏡下卵管形成術(FTカテーテル)〜クラミジア感染症と治療成績について〜. 日本産科婦人科学会富山地方部会例会, 2000, 4, 富山.
- 35) 津田 博, 道又敏彦, 種部恭子, 齋藤 滋: 妊娠初期末梢血および脱落膜リンパ球のTh2ケモカインレセプター(CRTH2)の発現についての検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 36) 佐々木泰, 茨 聡, 浅野 仁, 蔵屋一枝, 丸山有子, 丸山英樹, 池ノ上克: 横隔膜ヘルニアの患側肺拡張パターンの検討. 第52回日本産科婦人科学会, 2000, 4, 徳島.
- 37) 堀 慎一, 勝俣範之, 笠松高弘, 山田拓郎, 恒松隆一郎, 近江和夫: 再発性子宮頸がんに対する塩酸イリノテカンとカルボプラチンの併用療法. 第52回日本産科婦人科学会, 2000, 4, 徳島.
- 38) 津留明彦, 山岸直子, 酒井正利, 齋藤 滋: 子宮頸管粘液中IL-8値, 好中球数の変動と分娩予知についての検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 39) 内 尚子, 山川義寛, 日高隆雄, 藤村正樹, 齋藤 滋: 子宮体癌患者における子宮頸癌検診歴と予後に関する検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 40) 米田 哲, 酒井正利, 佐伯 愛, 種部恭子, 齋藤 滋: 切迫早産治療における硫酸マグネシウムの有用性および安全性に関する検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 41) 中島彰俊, 米田 哲, 酒井正利, 種部恭子, 齋藤 滋: 当科における双胎妊娠の新生児予後および妊娠管理に関する検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000, 4, 徳島.
- 42) 日高隆雄, 藤村正樹, 山川義寛, 齋藤 滋: 化学療法時の感染症予防に対するCSF製剤の至適投与方法についての検討. 第13回富山癌治療懇話会, 2000, 5, 富山.
- 43) 藤村正樹, 伊奈志帆美, 佐伯 愛, 中島彰俊, 日高隆雄, 山川義寛, 齋藤 滋: Paclitaxel, carboplatin併用療法(TJ療法)が奏効した子宮頸部腺癌の1例. 第28回日本産科婦人科学会北陸連合地方部会, 2000, 6, 金沢.
- 44) 日高隆雄, 齋藤 滋: HRT施行中に骨密度低下をきたした骨粗鬆症患者に対するビタミンK2の併用効果について. 第28回日本産科婦人科学会北陸連合地方部会, 2000, 6, 金沢.
- 45) 道又敏彦, 宮崎聡美, 津田 博, 齋藤 滋: 当科における細径腹腔鏡(MinisiteTM)使用の経験

- ～診断的腹腔鏡における細径腹腔鏡と従来式腹腔鏡の比較検討～. 第28回日本産科婦人科学会北陸連合地方部会, 2000, 6, 金沢.
- 46) 宮崎聡美, 種部恭子, 米田 哲: 子宮頸管長短縮例に対する頸管縫縮術の有用性についての検討. 第28回日本産科婦人科学会北陸連合地方部会, 2000, 6, 金沢.
- 47) 酒井正利, 米田 哲, 中島彰俊, 種部恭子: 母体IVH管理中に発症した胎児硬膜下血腫の1例. 日本産科婦人科学会富山地方部会例会, 2000, 6, 富山.
- 48) 道又敏彦, 宮崎聡美, 津田 博, 斎藤 滋: 当科における細径腹腔鏡(MinisiteTM)使用の経験～診断的腹腔鏡における細径腹腔鏡と従来式腹腔鏡の比較検討～. 第37回日本不妊学会北陸支部学術集会, 2000, 6, 金沢.
- 49) 副田善勝, 中島彰俊, 津田 恵, 高木紀美代: 不妊症例に対する腹腔鏡下手術の成績. 第37回日本不妊学会北陸支部学術集会, 2000, 6, 金沢.
- 50) 道又敏彦, 津田 博, 種部恭子, 斎藤 滋: 不妊症症例における末梢血Th1/Th2比と黄体機能に関する研究. 第18回日本受精着床学会, 2000, 7, 愛知.
- 51) 津田 博, 道又敏彦, 種部恭子, 斎藤 滋: 脱落膜にはTh2細胞, Tc2細胞が増加している. 第18回日本受精着床学会, 2000, 7, 愛知.
- 52) 酒井正利, 佐々木泰, 米田 哲, 種部恭子, 斎藤 滋: LPS誘導マウス早産モデルを用いたCOX-2選択的阻害剤の早産予防機序に関する検討. 第36回日本新生児学会総会, 2000, 7, 東京.
- 53) 宮崎聡美, 種部恭子, 米田 哲, 酒井正利, 斎藤 滋, 吉田丈俊, 宮脇利男: 早産児, IUGR児の顆粒球, 単球におけるG-CSF受容体の発現と好中球殺菌能, 貪食能についての検討. 第36回日本新生児学会, 2000, 7, 東京.
- 54) 高木紀美代, 酒井正利, 斎藤 滋: 切迫早産例における子宮内感染と児の予後. 第36回日本新生児学会総会, 2000, 7, 東京.
- 55) 道又敏彦, 宮崎聡美, 津田 博, 斎藤 滋: 当科におけるFTカテーテルによる卵管鏡下卵管形成術の治療成績. 第40回日本産科婦人科内視鏡学会, 2000, 8, 東京.
- 56) 道又敏彦, 津田 博, 種部恭子, 斎藤 滋: 脱落膜リンパ球のTh2ケモカインレセプター(CRTH2)の局在に関する検討. 第47回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会, 2000, 9, 金沢.
- 57) 家城匡博, 酒井正利, 佐々木泰, 宮崎聡美, 種部恭子, 斎藤 滋: 当院におけるstuck twin 7症例の検討. 第47回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会, 2000, 9, 金沢.
- 58) 伊奈志帆美, 藤村正樹, 日高隆雄, 山川義寛, 斎藤 滋: Paclitaxelの腹腔内投与が有効であった腹膜偽粘液腫の1例. 第47回日本産科婦人科学会北日本連合地方部会, 2000, 9, 金沢.
- 59) 道又敏彦: 当科における腹腔鏡下手術の現状. 日本産科婦人科学会富山地方部会シンポジウム, 2000, 9, 富山.
- 60) 斎藤 滋, 藤村正樹, 山川義寛, 斎藤 滋: 薬剤耐性卵巣癌である卵巣明細胞腺癌に対する抗c-Her/neu抗体(Herceptin)を用いた新たな治療戦略. 第59回日本癌学会, 2000, 10, 横浜.
- 61) 日高隆雄, 藤村正樹, 山川義寛, 斎藤 滋: 化学療法時の感染予防に対するG-CSFおよびM-CSFの効果について. 第59回日本癌学会, 2000, 10, 横浜.
- 62) 藤村正樹, 片岡 健, 日高隆雄, 山川義寛, 斎藤 滋: 薬剤耐性卵巣癌である卵巣明細胞腺癌に対するEGF-Rのチロシンリン酸化阻害剤(ZD1839)を用いた新たな治療戦略. 第38回日本癌治療学会, 2000, 10, 仙台.
- 63) 日高隆雄, 藤村正樹, 山川義寛, 斎藤 滋: 大量化学療法時の感染症予防に対するG-CSFおよびM-CSFの効果に対する検討(マウスモデル). 第38回日本癌治療学会, 2000, 10, 仙台.
- 64) 日高隆雄, 津田 博, 斎藤 滋, 喜多敏明, 柴原直利, 寺澤捷年: 漢方外来を当院産婦人科に開設して. 第20回産婦人科漢方研究会, 2000, 10, 広島.
- 65) 日高隆雄, 藤村正樹, 山川義寛, 斎藤 滋: 婦人科腫瘍術後血栓症の危険因子と予防的抗凝固療法の有用性についての検討. 第23回日本産婦人科手術学会, 2000, 11, 札幌.
- 66) 道又敏彦, 津田 博, 種部恭子, 斎藤 滋: 不妊症例における末梢血中Th1/Th2比と黄体機能に関する検討. 第19回北陸合同内分泌代謝談話会. 2000, 11, 金沢.
- 67) 米田 哲, 茨 聡, 丸山有子, 丸山英樹, 加藤英二, 小林康裕, 住田由美, 須波 玲: 頭部の位置が新生児の脳組織血液量と脳血流速度に及ぼす影響. 第37回九州新生児研究会, 2000, 11, 沖縄.
- 68) 道又敏彦, 津田 博, 種部恭子, 宮崎聡美, 斎藤 滋: 脱落膜リンパ球のTh2ケモカインレセプター(CRTH2)の発現および局在に関する検討. 第15回日本生殖免疫学会, 2000, 12, 東京.

- 69) 津田 博, 道又敏彦, 種部恭子, 斎藤 滋: 脱落膜にはTh2細胞, Tc2細胞が増加している. 第15回日本生殖免疫学会, 2000, 12, 東京.
- 70) 宮崎聡美, 種部恭子, 道又敏彦, 津田 博, 斎藤 滋: IL-2 receptor γ 鎖ノックアウトマウスにおける生殖性ならびに妊孕性に関する研究. 第15回日本生殖免疫学会, 2000, 12, 東京.
- 71) 郭 卯戌, 李 翔, 佐藤英明, 森 悦子, 斎藤 滋, 森 庸厚: MRL/lprマウスの卵巣におけるFasの異常発現と卵胞閉鎖形成不全. 第15回日本生殖免疫学会, 2000, 12, 東京.
- 72) 副田善勝, 津田 恵, 中島彰俊, 高木紀美代: 高プロラクチン血症を有する不妊症例の検討. 日本産科婦人科学会富山地方部会例会, 2000, 12, 富山.

◆ その他

- 1) 種部恭子: 低用量ピルについて. 平成11年度富山県女性の健康支援セミナー, 2000, 3, 富山.
- 2) 酒井正利: 新生児仮死蘇生術の実際. 富山県産婦人科医会総会, 2000, 4, 富山.
- 3) 斎藤 滋: 女性と喫煙. リカレント教育講座, 2000, 7, 富山.
- 4) 種部恭子, 宮崎聡美, 斎藤 滋: IL-2 receptor γ 鎖ノックアウトマウスにおける生殖性ならびに妊孕性に関する研究. 北陸実験動物研究会, 2000, 7, 富山.
- 5) 斎藤 滋: 出生前診断. 富山県リカレント教育学習コース, 2000, 8, 富山.
- 6) 種部恭子: 低用量ピルをどう教えるか. 第5回避妊指導スキルアップセミナー, 2000, 9, 広島.
- 7) 種部恭子: 日本女性とOC.OC情報センター第3回プレスセミナー, 2000, 10, 東京.
- 8) 種部恭子: 低用量ピルをどう教えるか. 第6回避妊指導スキルアップセミナー, 2000, 10, 名古屋.
- 9) 種部恭子: 産婦人科との上手な付き合い方. 富山市女性交流センター市民企画講座, 2000, 11, 富山.
- 10) 種部恭子: 思春期専門外来の現状と低用量ピルの指導に際しての正しい知識. 平成12年度第4回富山県助産婦研修会, 2000, 11, 富山.

眼 科 学

教授	早門	坂井	征次
助教授	松開	本繁	千真
講師	(前) 長木	川秀	義典
講師	柳沢	北川	秀一
助手	手北	渡辺	清彦
助手	手岩	佐芳	夫隆
助手	手張	田学	云子
助手	(前) 豊阿	部知	博
助手	(前) 阿林		由美子
技術専門職員			

◆ 原 著

- 1) Hayasaka S., Iwasa Y., Nagaki Y., Kadoi C., Matsumoto M., and Hayasaka Y.: Late complications after pterygium excision with high dose mitomycin C instillation. *Br. J. Ophthalmol.*, 84 : 1081-1082, 2000.
- 2) Watanabe-Numata K., Hayasaka S., Hayasaka Y., and Kadoi C.: Changes in deviation following correction of hyperopia in children with fully refractive accommodative esotropia. *Ophthalmologica*, 214 : 309-311, 2000.
- 3) Zhang Xue-Yun., Hiraki S., Kadoi C., and Hayasaka S.: Effects of nilvadipine, nicardipine, and verapamil on acute rise of aqueous flare induced by iris photocoagulation or intravenous lipopolysaccharides in pigmented rabbits. *Ophthalmic Res.*, 32 : 205-209, 2000.
- 4) Watanabe K., Hayasaka S., Hiraki S., Matsumoto M., Kadoi C., Nagaki Y., and Hayasaka Y.: Effects of topical clonidine on prostaglandin E₂-induced flare elevation in pigmented rabbits. *Ophthalmic Res.*, 32 : 210-214, 2000.
- 5) Hayasaka Y., Hayasaka S., Hiraki S., Kadoi C., and Nagaki Y.: Serum methanol levels in subjects with or without optic nerve head disease. *Ophthalmic Res.*, 32 : 299-304, 2000.
- 6) Budu, Matsumoto M., Hayasaka S., Yamada T., Hayasaka Y.: Rhodopsin gene codon